

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	演芸
----	------	----	----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃ ていすいきかくしつ		団体ウェブサイトURL
	有限会社 貞水企画室		
代表者職・氏名	代表取締役 小池岳士		
制作団体所在地	〒 113-0034	最寄り駅(バス停)	東京メトロ湯島駅
	東京都 文京区 湯島3-32-3		
電話番号	03-3831-1555		
ふりがな 公演団体名	ゆうげんがいしゃ ていすいきかくしつ		団体ウェブサイトURL
	有限会社 貞水企画室		
代表者職・氏名	代表取締役 小池岳士		
公演団体所在地	〒 113-0034	最寄り駅(バス停)	東京メトロ湯島駅
	東京都 文京区 湯島3-32-3		
制作団体 設立年月	平成16年11月		
制作団体組織	役員	団体構成員及び加入条件等	
	浅野丈太郎、浅野ゆき子、小池将直	講師・一龍斎貞友、一龍斎貞橘	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名	小池岳士
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	小池将直
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	kikaku@teisui.co.jp		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>2004年に有限会社貞水企画室は、講談界初の人間国宝・一龍斎貞水により設立された。故・一龍斎貞水の意志を受け継ぎ、未来の講談界に繋ぐべく『講談普及』『講談伝承』の二つの柱を目的とし活動</p> <p>『講談の普及』 貞水のことば「伝統(講談)は今の時代にもてはやされ、はじめて守ったことになる」 講談の守るべき伝統と、時代の求めに応じ変化する事柄を踏まえ、様々なアプローチで講談普及に努める。</p> <p>『講談の伝承』 貞水のことば「先人から受け取った講談を後世に伝える」 文化庁の補助事業「文化財関係国庫補助事業」、講談協会主催による『伝承の会』の制作・監修・助成を行っている。この事業は『伝承』を目的に会派・門・東西の垣根を超え講談界が一つとなつて行われている。若手から中堅の講談師(受講生)とベテランの講談師(講師)を結び付け、一年間の稽古を経て発表会を行う。</p> <p>『東京文化財研究所・実演記録』 ※貞水のみ知る貴重な読み物(演目)を実演記録しました。</p>			
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>講談普及のため学校公演に毎年20～40公演参加</p> <p>平成21年度「本物の舞台芸術体験事業」参加作品 平成22年度「子どものための優れた舞台芸術体験事業」参加作品 平成23年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」参加作品 平成24年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」参加作品 平成25年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」参加作品 平成26年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品 平成27年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品 平成28年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品 平成29年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品 平成30年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品 令和3年度「文化芸術による子供育成総合事業」参加作品 令和4年度「文化芸術による子供育成推進事業」参加作品 令和5年度「文化芸術等総合支援事業」参加作品【A・C2区分で参加】 令和6年度「舞台芸術等総合支援事業」参加作品【A・C2区分で参加】</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>				
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/fJALAeZwf98</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

別添	あり
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 有限会社 貞水企画室】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○

企画名	『講談の世界』 ワークショップ「講談教室」・本公演「講談〇〇亭」 創案 故・一龍斎貞水(人間国宝)
-----	--

企画のねらい	<p>講談には日本人だからこそ味わえる人の情、慣習、季節感などが溢れています。そして日本の国でなければ、日本語でなければ生まれ、発展しなかった芸能です。</p> <p>先入観のない感受性豊かな子供たちに今、この世界にも誇れる素晴らしい伝統話芸・講談をお楽しみいただき、その先の豊かな人生の糧になればと願います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講談から「人」を学んでほしい 人情の機微、人の善悪、人と人の繋がり、日本人が大事にしてきた美徳や道徳観。風化しつつある大切な事が講談にはたくさん詰まっています。講談からあるべき人のすがたが映し出されます。 ● 講談から「正しい日本語」「美しい日本語」を学んでほしい 講談調とは聴き心地のよい独特な七五調のリズミカル。講談には正しい日本語、そして美しい日本語の響きがそこにあります。 <p>故・六代目一龍斎貞水は 「伝統を守るといことは、先人から受け継いだ芸をただ上手に演ずることだけではだめ、その時代の人(お客様)に受け入れられてこそ本当に芸を守ったことになる」とよく言っていました。講談は今でも時代の求めに応じて変化し続けています。</p> <p>公演後に児童、生徒さん方から「楽しかった」「迫力があつた」「怖かった」など、手応えを感じる感想を数多く頂いております。「面白かった」→「また観てみたい」と思っていたけるようにする。我々はそこに重点を置いており、当プログラムも講談に初めて出会う生徒さんに自然に親しんでいただけるよう、様々な工夫が凝らされています。</p> <p>※別添「番組について」も合わせてご参照ください。</p>
--------	--

演目概要・演目選択理由	<p>江戸時代、講談師の始まりは字の読み書きができなかった庶民に「太平記」などの本を、分かりやすい解説を交えて読んで聞かせた先生のような存在であったといわれています。それだけに教訓談が講談に含まれます。講談では演目を「読み物」と表し、講談師を「～先生」と呼ぶのはその名残なのです。</p> <p>講談の読み物には子ども力士が登場「越の海」、決闘シーンが迫力の武芸物「宮本武蔵」、怪談「四谷怪談」「耳なし芳一」などのおどろおどろしい話、歴史上の有名人が登場する読み物など多くの作品が存在し、その中には先人たちの思いや教えが散りばめられています。またそれはお聞きになる方の世代、現状によって受け取り方、感じ方が大きく異なるものです。</p> <p>「読み物」(演目)は現代に生きる子どもたちにとって学びの種となれる、親しみやすい物を厳選しています。</p> <p>「番組」は子供たちの集中力が途切れない様に、解説・発表(体験)・学校ニュース・怪談(又は上方)・看板真打と様々な角度からアプローチしています。また各プログラムを短くして、流れをよくしています。</p> <p>当プログラムは過去通算14ヶ年度、参加させて頂きました。公演ごとに生徒さんの反応や先生方のご意見を基に、公演ごとに都度、改善を施しています</p>
-------------	--

児童・生徒の参加又は体験の形態	<ul style="list-style-type: none"> ● 講談の体験 ワークショップで「お稽古」⇒本公演で「発表」 ワークショップで3グループ(学年別)ごとに分かれてお稽古をした「水戸黄門」「修羅場」「義経と弁慶」。本公演ではグループ代表のチームが高座に上がって発表していただきます。 チームは3名一組。役ごとにセリフを分けたり、話を三つに区切るなどして演じていただきます。 ● 釈場運営に参加 半被を着て運営のお手伝いをしてもらいます。 ＜会場班＞10名程度 ・のぼり等の会場設営、生徒さんの入退場時の案内役。 ＜前座班＞3名程度 ・高座がえし(座布団、メクリをかえす)。 ＜アナ班＞2名程度 ・開演前の諸注意などのアナウンス。
-----------------	---

児童・生徒の参加可能人数	本公演		参加・体験人数目安	25人前後	
			鑑賞人数目安	制限無し	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>※別添「本公演」も合わせてご参照ください。</p> <p>幕が上がると本格的な寄席舞台(釈場)が登場します！</p> <p>本公演プログラム 「講談〇〇亭」 ※〇〇には学校名が入ります。 公演時間90分</p> <p>☆席亭は校長先生です 開演前のご挨拶は高座の上で講談調で！</p> <p>1.講談入門 ～釈場へようこそ～ ワークショップでは主に講談(芸)についての解説を行いました。 本公演では講釈場を再現した本格的な舞台を見ながら、高座・メクリ・座布団の置き方などについて解説を行います。</p> <p>2.講談発表 ～ワークショップでのお稽古の成果をここで～ ワークショップでグループごとでに分かれお稽古した読み物を、各グループの代表チーム(三人一組)が発表。</p> <p>3. 講談 ～怪談 まはた 上方講談～ 演出が入った少しこわい怪談か、賑やかで楽しい上方講談が入ります。番組のアクセントとなります。 ～お仲入り(休憩)～</p> <p>4.連続講談(後半)～ワークショップのつづき～ ワークショップでいいところで切られたその続き「果たして結末はどのようなのでしょうか？」</p> <p>5.色物 ～おどろきの妙技～ 話芸(講談)に挟まれ、目でお楽しみいただく色物。紙切り、曲ごま、太神楽などでしばし箸休め。</p> <p>6.講談 ～看板真打ち～ いよいよベテラン看板仕打ちが登場。さすがの説得力！伝統芸能の醍醐味を体感！</p>				
				公演時間	90
出演者	講談協会、日本講談協会、なみはや講談協会、上方講談協会、大阪講談協会、フリーより 講談師 計5名(真打3名・二ツ目1名・前座1名)+色物				
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	一龍齋貞橘・一龍齋貞寿(女流)・神田山緑・宝井琴鶴(女流) 玉田玉秀齋(上方) 会派、東西、協会の垣根を超え、また女流も含み多角度からアイデアを持ち寄り、番組をつくっています。				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含	出演者: 6～7 名 スタッフ: 4 名 合 計: 10～11 名	運搬		積載量: 1 t 車 長: 5.3 m 台 数: 1 台	
本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		前日仕込み所要時間		時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去
	9時	9時～12時	13時30分～15時	10分	～17時
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。					
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	
	20日	14日	9日	19日	
	10月	11月	12月	1月	
	22日	20日	18日	15日	
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計	137日

(図1)ワークショップ公演の様子。ワークショップではステージ上でなく、フロアに高座を設営いたします。高さなどに境界を設けずに、より親しみをもって、解説を聞いていただきたための工夫です。



(図2)本公演の舞台セッティングが完了した状態。寄席を再現した舞台をステージ上に設営をし、臨場感たっぷりにご鑑賞いただけます。各学校のステージサイズに合わせ、調整しながら設営をいたします。



公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)

(図3)会場には、のぼりや講談に関する展示を設営いたします。



※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

(図4)入場時には、担当の児童・生徒さんに、法被を着て、他の児童・生徒さん方をお出迎えをしていただきます。



著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要否		該当コンテンツ名	許諾確認状況
	該当事項がある場合	権利者名		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	あり
----	----

【公演団体名 有限会社 貞水企画室 】

<p>ワークショップのねらい</p>	<p>大人にとって、講談は少し硬く、難しそうなイメージがあると思います。それは講談では物語を誇張したり、登場人物を立派に見せる演出のため「あえて難しい言葉」を並べたりするせいでしょう。しかしそれらはストーリーを盛り上げるBGMのような役割なのです。</p> <p>子供たちは講談に対して予備知識や認識がありません。この事業ではじめて講談に出会うのです。なので難しい説明よりも、先ず感覚(感性)に直接訴えかける様々なアプローチをします。鮮度の高いプログラム、様々な角度からのアプローチ、工夫を凝らした演出、自然と講談に馴染んで頂けるような仕組みとなっています。</p> <p><様々な工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ワークショップはフロアで行います。高さと垣根のを取り払うことでより身近に親しめます。 ○映像を使いながら分かりやすく解説。 ○迫力の「修羅場」でいきなりスタート。 ○クイズ形式を用いて楽しく学べます。 ○体験は全体→グループ→個人と段階を踏むことで徐々に緊張をほぐす仕組みに。 ○「学校ニュース講談」では驚きとともに、講談(講談師)の凄さを感じていただけるはず。 <p><事前>ワークショップ前からも準備運動的な工夫として</p> <ul style="list-style-type: none"> ●動画『講談への扉』を鑑賞 YouTube配信、またはDVDを事前にお送りして予習 ●張り扇をつくろう ワークショップと本公演の体験する際の張り扇を、作り方マニュアルを参考に作っていただきます。 <p>講談は講釈と言っていました。分かりづらい内容(本)を噛んで含めるよに分かり易く講釈したからです。それは今の時代に、今の人たちに、またお客様(対象)により行われています。きっと講談を知れば、歴史や偉人などについて興味が沸き、もっと知りたくなることでしょう。</p>		
<p>児童・生徒の参加可能人数</p>	<p>ワークショップ</p>	<p>参加人数目安</p>	<p>全員</p>
<p>ワークショップ実施形態及び内容 ①</p>	<p>※別添「ワークショップ」も合わせてご参照ください。</p> <p>ワークショッププログラム 「講談教室」 公演時間60～90分 ※生徒数やご要望に応じ設定</p> <p>一 講談「三方ヶ原」 ～迫力の修羅場よみ～ 戦国時代、武田信玄の軍勢が徳川軍の城に攻めかか激しい合戦シーン。</p> <p>何の前触れもなく、いきなり一席 ⇒ 合戦の様子が描かれた映像を見ながら ? 迫力の語りにあっけにとられる? !! 「なるほどこんな感じか」と納得!!</p> <p>まずは講談の基本である「修羅場よみ」を体感いただきます。</p> <p>二 ごあいさつ ～タイプの異なる3名講談師で進行～ ワークショップ進行する3名の講談師が出演者自己紹介。 ※このあと、講談師1名は「学校ニュース講談」の脚本を作るため一度楽屋へ戻ります。</p> <p style="text-align: center;">↓↓ 次頁につづく ↓↓</p>		

三. 講談の読み方 ～語り方～

講談と、落語や朗読といった他の話芸と聴き比べていただきます。

<朗読> 滑らかな読み方 慣れ親しんだ感じがする。	⇔	<講談> 抑揚が強くメリハリのある 句読点にバンパンパンと張り扇が打たれます
<落語> オチ(笑い)をつける 登場人物の会話で構成される	⇔	<講談> 「切れ場」で終わる 話の中にト書きのような説明(講釈)が入る

四 講談の道具説明 ～釈台と張り扇～

道具の説明をしながら講談のルーツも探っていきます。

- 釈台 本来はこの小机に本を置き読みながら演じていました。
その名残で講談では一席を「読む」と言います。
- 張り扇 辻講釈といって、街の辻々に立って野外で講談は演じられていました。
張り扇を叩いて人目を引いたそうです。
演出の面でも話の句読点の役割をしたり、調子をつけるために使われます。
- 扇子 落語でも使われますが、様々なものに見立てます。
手ぬぐい 扇は刀になったり、手ぬぐいは財布になったりします。

五 みんなでパン！パン！張り扇体験

子どもたちが作ったオリジナルの「張り扇」をここで使用します。
「三方ヶ原」の一説を講談師が語り、講談師のキッカケ(合図)に合わせて張り扇を叩いてもらいます。
話に勢いをつける演出を体験しましょう。

六 講談ジャンルクイズ

講談は読み物が力士伝、白波物、軍談、怪談など様々なジャンルに分類されます。
クイズ形式で進行。
映像の人物(お相撲さん・泥棒・侍・幽霊など)を当ててもらい、正解のあとに、
講談師が有名な1フレーズ実演します。
講談の奥行と広さを学んでいただけます。

七 学校ニュース講談

講談師は今も昔も新作を作るときは自身で現地へと赴き、面白そうな出来事を詳しく
調べ(取材)、それを本におこして(脚本)、脚色を加え(演出)、自身で口演(演者)
します。一人で全行程をこなしてしまうのです。
当プログラムでは朝学校で起こった最近のニュースを取材し、即興で講談を作り(脚本、
演出)、口演します。
先生も生徒さんも毎回驚きの、講談ならではの人気プログラムです。

八 講談チャレンジ 其一

挙手で希望者を募り、名乗りの一節を大きな声で発表(お稽古)します。
「我こそは●●である。○○にかけては誰にも負けぬ～」
※●●は自分の名前。○○は得意なこと。

↓↓ 次頁につづく ↓↓

ワークショップ
実施形態及び内容

③

九 講談チャレンジ 其二

低学年・中学年・高学年3グループに別れお稽古します。※中学は学年ごと
講師がそれぞれ講師となり、子供たちは3人一組で一つの読み物をお稽古します。

★低学年＝「水戸黄門」 水戸黄門役・助さん役・角さん約

★中学年＝「義経と弁慶」 義経役・弁慶役・(ト書き)役

★高学年＝「修羅場」 前半・中盤・後半

本公演では、各グループの代表組が発表をおこないます。

十 連続講談(前半)

現代の講談では一話読み切りが多くなっていますが、本来は「連続物」といって、現代の
連続ドラマのように何話もあるのです。

あえて面白くなってきたところで終わり、また次回のお楽しみとするわけです。

当番組では前半部分をワークショップで、後半部分を本公演でご覧いただきます。

①事前、事後に動画「講談への扉」

貞水企画室で自主制作した動画「講談への扉」をYouTubeにてご覧いただけます。
東京 日本橋の日本橋亭を貸し切り、寄席(講釈場)の普段は見られない舞台裏を
撮った寄席、講談のオリジナル解説動画です。

②ワークショップと前後の事前・本公演プログラムが繋がっています。

<事前>「張り扇」の作成 動画「講談への扉」鑑賞

↓

<WS>お稽古(体験・創作)※自作の張り扇を使用します。

↓

<本公演>発表 ※お稽古の成果を発表

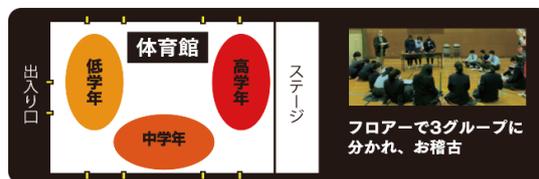
その他ワークショップに
関する特記事項等

ワークショップでは体育館フロアに高座を設置します。

- ・より身近な距離感で親しんでいただけるように。
- ・講談お稽古ではフロアを3ブロックに分け、グループごとでお稽古を行います。

※別添「番組について」も合わせてご参照ください。

▼ワークショップの最後のまとめの
お稽古は3グループに別れ、
行います。



※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名 有限会社 貞水企画室】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>これからの日本を担う子供たちに、日本の伝統話芸・講談を知っていただきたい・・・</p> <p>講談は落語とならび日本の伝統二大話芸です。 この二つの伝統話芸には日本人でこそ味わえる人情の機微、慣習、季節感などが溢れています。そして日本の国でなければ、日本語でなければ生まれ発展しなかった芸能だとおもいます。この魅力を知ればきっと日本人で生まれてよかったと感じられることでしょう。</p> <p>「講談」は「講釈」と呼ばれていました。それは江戸時代、字の読み書きが出来なかった庶民に、浪人などの知識人が「太平記」など歴史の本を解りやすく解説を交え、講釈をしながら読んで聞かせていたからです。 講談師が前に置く小机(=「釈台」)には本来は本が置かれます。今でも演目の事を「読み物」と呼び、講談師(真打)を「先生」と呼ぶのは、その当時の名残なのです。講談師の祖先は、今の学校の先生みたいなものだったのです。 そして徐々に演芸として発達してゆきます。するとお客様が飽きない様に様々な工夫が施されました。物語には脚色を加えられ、語り方も講談調という独特の調子、「張り扇」を叩きながら話にメリハリを付けます。 こうして講談は時代、時代の人々に愛され、今に繋がれて来たのです。</p> <p>講談には、日本人が持つ先人からの知恵、人を思いやる道徳心、そして日本語の美しさがあります。</p> <p>「風化しつつある日本の大切なもの」・・・講談を通して学んでいただけます。</p> <p>～講談(読み物)からこんなことが学べます～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の大切さ(相手に伝わる話し方) ・人と人との交わり方(友達・親子・先生と生徒) ・目上の人との接し方や、言葉の使い方 ・面倒を見るということの意味(弱者や困っている人を助けること) ・作業も工夫をすれば、こんなに早く終わる <p style="text-align: right;">などなど</p> <p>子供たちがこのプログラムを通して講談の魅力を感じ、そしてまた観たいと思っていたら、このプログラムがそのキッカケになればと願っております。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校公演を中心に講談普及活動を年間30～70本のペースで十数年にわたり取り組んで参りました。その経験を生かして対応します。 ○本物の芸に触れてほしい 本物の芸に理屈はありません。ただ圧倒的な説得力があるものです。 心に残り続けるほのかな余韻は、その芸に触れた人だけが知る至高の贅沢。 ○本物の舞台を設営 良いものにはしっかりと衣をつけ、さらに良いものとする。 本格的な寄席舞台を設営いたします。 ○公演終了まで、学校様が事業を、円滑に進めるように 学校様用の打合せ資料(手引書)を、ご用意するなど 細かなサポートをしていきます。
--	--

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先 No.2

【公演団体名 有限会社 貞水企画室 】

A区分
別添
番組について

講談の世界とは

ワークショップ「講談教室」 本公演「講談〇〇亭」

※〇〇には学校名が入ります。

出演：講談協会・日本講談協会・なみはや講談協会・上方講談協会・大阪講談協会・フリーより

講談界初の人間国宝・故一龍斎貞水の創案をもとに企画構成されております。

講談とは。。。

釈台と呼ばれる小机を張り扇で
パンパンと叩いて調子とり、
独得の七五調で物語を語る、これが講談です。



故一龍斎貞水【人間国宝】

講談を演じることを「読む」といいます。
これは本来、釈台の上に本を置いて読む事を由来としています。
また演目は「読み物」といいます。
読み物の題材は、主に歴史上で実際にあった出来事や人物。
それをそのまま語るのではなく、聞き手が楽しめるよう、
史実をもとに壮大な脚色を加えてゆきます。
江戸の時代から今に至るまで、庶民の娯楽として脈々と生き続けてきました。
講談は日本が誇る伝統話芸です。

事前と当日の工夫ポイント

事前

・張り扇をつくらう

※ワークショップで使用します。

「張り扇作り方」マニュアルを参考に生徒さんが張り扇を作成



・動画「講談への扉」鑑賞

※公演後のおさらいとしてもご利用いただけます。



東京・日本橋にある寄席「日本橋亭」を舞台に独自制作された動画です。

講談とは？

この動画を見れば講談の一通りを知る事が出来ます。

企画のねらい

当日

！ 本格的な釈台を再現

講談の興行（公演）が行われている寄席（劇場）を釈台と言います
江戸時代には江戸の各町内にあったそうです
当時、講談は庶民の娯楽の中心でした



〇〇〇には、学校名が入ります。

！ 釈場の運営に参加

児童生徒さんに半被を着けて、運営をお手伝いしてもらいます

会場組（10名程度）



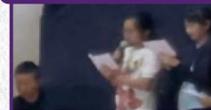
のぼり等会場の設営、入退場の案内

前座組（3名程度）



講談発表会の高座返し
（座布団・メクリをひっくり返します）

アナウンス組（2名程度）



公演の諸注意などのアナウンス

！ 講談ミニ博物館（展示コーナー）

※一龍斎貞水が実際に使用していた道具と、所蔵していた品の展示



別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先 No.2

【公演団体名 有限会社 貞水企画室】

A区分
別添
本公演

講演00序
公演時間 90分 ※〇〇には学校名が入ります。

講演入門 ~釈揚へようこそ~
講演専門の劇場、講釈場の舞台（高座）を再現
座布団の置き方にルールがある！ 寄席文字（めくり）の字の秘密
舞台の事を高座ってなんて呼ぶの？ 前座さんのお仕事～

講演発表会
ワークショップでお稽古した成果をここで発表
3グループの中から各代表チーム（三人一組）による講演発表
大きな声で、元気よく講演をやってみよう！

講演
こわーい怪談や、にぎやかな上方講演

お仲入り（休憩） 休憩中は展示を見たり、体験高座でお楽しみいただけます
前回（前半）はワークショップで

連続講演（後半）
講演の本来の姿であり醍醐味である連続物を、ごくごく短い読み物で実演
ワークショップ(前半) → いいとこで切る！ → つづきはいかに！ → 本公演(後半)
さて、この後どうなることかこの後が、面白くなる場所ですが...
さて、いよいよ相まみえる事になりました二人

色物
紙切り、曲ごま、曲芸など「目」でお楽しみいただけます

講演
トリには、看板真打ちの登場

本公演演目

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先

No.3

【公演団体名

有限会社 貞水企画室

】

講談教室

公演時間 60分～90分

一、講談「三方ヶ原」～惟羅揚ふみ～

講談の迫力の語りと、威勢よくバンバンと鳴り響く張り扇。まずは講談がどんな芸能なのか？



二、ごあいさつ 出演者がそれぞれ自己紹介


上方(大阪)


江戸(東京)


女流

三、講談の読み方(語り方)

朗読と同じ題材で実演比較します。また落語とも比較することでその違いも解説


朗読

比較




講談

四、講談の道具説明(釈台と張り扇)

講談ならではの道具を紹介


釈台


張り扇


扇子と手ぬぐい

五、みんなでバン！バン！ 張り扇体験

事前に生徒さんが作った張り扇を使って、講談師のキッカケで叩いてみます

バン


指を1本出したら
張り扇をバン

バンバン


2本出したら
バンバン

バンバンバンバンバン


5本でバンバンバンバンバン

六、講談ジャンルクイズ

講談には日本の偉人伝や歴史に残る出来事。また逸話に至るまで、ほぼすべての読み物が存在します


合戦の様子を語る


修羅場


お化けが出て来る怖い話


怪談物

他にも泥棒が主人公の白浪物、悪者が活躍する武芸物など

七、学校ニュース講談

公演当日の朝、学校のエピソード取材し本公演までに講談をつくりご披露します


取材の役


脚本家の役


演出家の役


演者の役

今からお聞きいただくお話は、「今日の朝」取材し、たった今出来上がったこの学校の講談です！

八、講談チャレンジ 其一 会員お稽古!

我こそは〇〇学校〇年〇組リフティングにかけては誰にも負けぬ〇〇(名前)である。我と思わんものは尋常の勝負におよべ

ゲーム好きにかけては・・・

メダカの飼育にかけては・・・

など自由に自分が得意なことを入れます。
※セリフをプロジェクターで

九、講談チャレンジ 其二 グループお稽古!

各グループで代表の組を選んでもらいます。

低学年



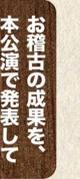
体育館



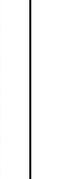
高学年



中学年



ステージ



※フロアで3グループに分かれ実施

お稽古の成果を、本公演で発表して頂きます。

十、連続講談(前半)

次回(後半)は本公演で

現代では一話読み切りが多いですが、講談は本来、連続物といって何席もあるものです。あえて、面白くなるところで終わり、また次回に繋ぎます。現在の、テレビドラマみたいなものです

ワークショップ(前半)

➡

本公演(後半)

ワークショップ
実施形態及び内容